

第22回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会の開催結果

開催日時	令和4年12月20日(火) 午後2時～午後4時
場所	旭川市博物館 郷土学習室
出席者	小野氏, 川村氏, 高橋基氏, 本間氏 (欠席: 伊藤氏, 高橋靖以氏) 計4名 事務局: 石原館長, 飯岡課員
公開・非公開	公開
傍聴者	なし
会議資料	① 令和3年度製作・令和4年度設置アイヌ語地名表示板資料 ② 令和4年度製作予定アイヌ語地名表示板文面案等資料

第22回 旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会

日 時 令和4年12月20日 午後2時
場 所 旭川市博物館 郷土学習室

次 第

1 開会

2 館長挨拶

3 議題

- (1) 令和3年度製作・令和4年度設置のアイヌ語地名表示板の報告について
- (2) 令和4年度製作予定のアイヌ語地名表示板について
- (3) その他

4 閉会

事務局	<p>ただいまより、第22回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を開催いたします。今年度の懇談会については、旭川市アイヌ政策推進交付金事業計画に基づき開催しております。</p> <p>本日の懇談会の内容については、配付している会議資料表紙の次第のとおりです。開催時間につきましては、2時間程度を予定しております。</p> <p>それでは、館長より御挨拶申し上げます。</p>
館長	<p>皆様には、年末の大変お忙しい中、悪天候の中、遠方から、そしてコロナウイルスも収まらない中、本懇談会に参加していただき、誠にありがとうございます。</p> <p>小野先生をはじめ、本懇談会の皆様には、アイヌ語地名表示板関係をはじめ、様々な博物館事業の推進に当たり、多大なる御高配を賜り、心より厚くお礼申し上げます。</p> <p>アイヌ語地名表示板も、皆様からの御意見をいただきながら、今年の6月には39基目となります「比布川」の表示板を設置させていただくことができ、大変感謝しているところでございます。</p> <p>博物館では、今年度、アイヌ語地名表示板設置のほかに、昨年、一昨年とコロナウイルスの感染拡大により中止していたアイヌ語地名ツアーを、今年の10月に開催し、バスで永山方面に設置されている「永山2号川」「永山3号川」「射的山」などの表示板を周り、アイヌ語地名に関する説明等をさせていただいたほか、11月3日のアイヌ文化に親しむ日の事業実施時から、アイヌ語地名表示板の一部になりますが、表示板の写真や地名の説明を常設展示室内に展示しているところであります。</p> <p>本日の懇談会では、次のアイヌ語地名表示板は「南校川」とさせていただいたところであり、皆様には「南校川」の表示板の設置等に当たり、御意見をいただき、当該表示板の製作作業等を進めてまいりたいと存じますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお、設置に当たりましては、場所について現在調整中であり、もし設置に当たり予算を超えるようなことがありましたら、今年度は製作まで進めさせていただき、次年度での設置を考えているところでございます。</p> <p>コロナウイルスの感染も変異種が出てくるなど、なかなか収まらず、今後も気を払いながら各種事業等を進めていくこととなりますが、今後もアイヌ文化の推進に向け、アイヌ語地名表示板の設置をはじめ、様々な事業を進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも、御理解、御協力のほど、よろしく願いいたします。</p> <p>最後になりますが、皆様方の今後の御健康と御活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の懇談会の内容は、ホームページでの公開の対象となっております。会議録作成のため、録音させていただいておりますので、あらかじめ御了承ください。</p> <p>それでは、これからの議事進行については、座長をお願いいたします。</p>
座長	<p>年末のお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。それでは早速、本日の懇談会を始めさせていただきたいと思っております。</p> <p>本日の議題が3つあがっていますが、前回議論させていただいて、今年度設置していただいた「比布川」の表示板について、事務局から御報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>お配りしている会議資料の2ページ目、3ページ目になります。</p>

	<p>令和3年度、令和4年3月22日に開催した、第21回懇談会において、文面等の検討をいただいた「ピピ／ピプ、比布川」の表示板製作と設置の報告になります。</p> <p>皆様に文面と図の検討をいただき、2ページ目の写真のとおり、表示板を製作設置いたしました。製作は令和3年度中に行い、設置は令和4年6月9日に実施いたしました。2ページ目の下の写真は、設置が完了した表示板を、少し遠くから写したのものになります。</p> <p>設置場所ですが、3ページ目になります。</p> <p>場所は、旭川と層雲峡を結ぶサイクリングロードの途中にある、石狩川百景休憩施設という休憩場所になります。東屋の方から見る向きで設置いたしました。</p> <p>議題1についての報告は以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>3ページ目の上の写真と、下の写真の関係はどうなっているのですか。</p>
事務局	<p>上の写真は、設置場所を含む広範囲の航空写真になります。下の写真は、石狩川百景休憩施設の部分をクローズアップしたものになります。休憩施設は円形になっており、円形の真ん中に東屋が設置されています。観光案内の看板が2～3基立っていて、そこに並べるようなかたちで、赤矢印が指している辺りに設置いたしました。</p>
座長	<p>サイクリングロードは、比布川の川沿いを走っている道ですか。</p>
事務局	<p>ずっと川沿いをきて、休憩施設をぐるっと回って、比布川にかかる橋を渡って層雲峡まで続いています。</p>
B氏	<p>層雲峡までサイクリングロードになっているのは、すごいですよね。</p>
座長	<p>そうですね。他にはよろしいですか。ありがとうございました。</p> <p>それでは議題2についてお願いします。</p>
事務局	<p>議題2の令和4年度製作予定のアイヌ語地名表示板についてです。会議資料4ページ目以降になります。</p> <p>今年度については「南校川」の表示板の製作を検討しております。</p> <p>懇談会開催のお知らせと一緒に送りましたが、参考として、配付資料の5ページ目は、国土地理院のホームページから印刷した地図になります。南校川の川筋を青の色鉛筆で描いております。こちら、川筋を国道とJRの線路の間に引いておりますが、正確には線路の右側を流れます。申し訳ございません。</p> <p>会議資料の6ページ目が、明治31年の陸地測量部の地図になります。こちらも川筋を青の色鉛筆で描いております。</p> <p>南校川の文面については、C氏、D氏より案をいただいております。8ページ目がC氏よりいただいた文面案、9ページ目がD氏よりいただいた文面案になります。</p> <p>また設置場所については、館長からの挨拶にもありましたとおり、現在検討中です。10ページ目が、設置場所の候補として考えている場所の地図になります。南校川沿いに学校や公園がありますので、そのいずれかを考えております。</p> <p>まずは文面について御検討いただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
座長	<p>ありがとうございました。それでは文面案について、Cさんから御説明いただければよろしいですか。</p>

C氏	<p>私の文面案で、アイヌ語（カタカナ）のところ「テレケウシナイ」の「レ」は、「ウシ」の「シ」と同じ、小さい「レ」です。訂正ください。</p> <p>南校川は、若い人には「南校」というのがちょっと分からないかと思います。文面を一回読んでみますと、「アイヌ語本来の意味は、川幅がせまくなっていて、いつもそこから対岸へ飛び越える川の意味である。」。</p> <p>アイヌ語訳を「飛び越え・つけている・川」としているのは、知里真志保先生の訳ですけども、本来アイヌ語としてはこういう訳です。なぜ南校川になったのかという点について、今は南高校が別の場所にあるので、若い人には分かりにくいかなと思って、少し詳しく書いたのですが、「南校川」と言われたのは、昭和31年に現在の神楽6条12丁目に、」と。現在の地図を見ていただきたいのですが、南高校が今は神楽中になっています。ここに学校があって、南校川といわれたのは、昭和31年に現在の神楽6条12丁目、具体的に言えば、現在の神楽中学校に「旭川南高等学校が設置されたからである。なお同校は昭和57年に西神楽4線6号に移転した。」。</p> <p>どこかに、現在の神楽中というのを入れた方が、なお分かりやすいかもしれません。</p> <p>地図は南高校という名前が入っている昭和44年の5万分の1国土地理院を選んでいきます。南校川の由来は、ここに旭川南高等学校があったからという、珍しい由来かなと思ったりしています。以上です。</p>
座長	<p>ありがとうございました。日本語の地名の由来についても書かれたわけですね。</p> <p>そしてもう一方のDさんの案は、アイヌ語は同じですね。アイヌ語訳が「飛び跳ねる・いつもする・川」となっています。文面は、アイヌ語の解釈は両方とも同じですね。Cさんの案は、現在の南校川の名が、どうして付いたかという説明を書かれているということですけども、いかがでしょうか。</p> <p>現地を知らないのですけれども、御存知の方いらっしゃいますか。本当に狭くて、飛び越えられそうな川ですか。</p>
B氏	この川全体がそうなのか、一箇所そういう狭いところがあるのか。
座長	そう、そこがね。アイヌ語地名は常にそうですが。
B氏	狭くなっている場所じゃないと、適切でなくなってしまうですね。
館長	<p>川幅は場所によっていろいろですが、神楽中のところから神楽岡駅くらいまでは、だいぶ幅があった気がします。今は広がっているというのもあるかなと思いますが。</p> <p>現在の地図で見たときに、南校川は旭川工業高校の近くまでつながっているようになっているのですが、元々はもっと手前で、今は上からかなり水が流れてきていて、住宅街の中を流れているので、灌漑整備がされているという部分があったりしています。上からの水も流れるようにしてあるので、水量が増えているということかとも思うのですが。</p> <p>ただテレケウシナイということですので、当時は飛び越えられる川だったのかなと思っています。</p>
座長	そうでしょうね。設置場所の候補になっている、みつばち公園とか、神楽岡11・6児童遊園の辺りの状況は分かりませんか。その辺りは、そんなに広がっていないかなと思うのですが。
館長	この辺りは、飛び越えられないことはないと思いますが、ちょうど神楽岡11・6児童遊

	園の所に、水をせきとめるような水門があったりしますが、それでもそれほど幅はなかったと思います。
座長	いずれにしても、現在ではなくて、「かつては」という言葉を入れた方がいいと思います。名前がついた頃は川幅が狭くて、誰でも飛び越えることができたということではないかなと思うのですが。現在の状態を基準に考えてしまうのは、ちょっとふさわしくない。 表示板としては、なるべく上流の方がいいのではないかなという気がしますけれども、どうでしょうか。
C氏	私は、南校川と付いているので、やっぱり神楽中学校の方がいいかと思います。
座長	そうですね。南高校が近いから南校川になったという意味では、逆に下流の方がいいかもしれないですね。
B氏	Cさんの文面案の中で、南校川の「こう」が、高いの「高」になっていますけど、学校の「校」ですよ。地図の方も、一箇所そうになっていますけど。
座長	そうですね。二箇所訂正ですね。
B氏	確かに、どうして南校川という名前なのかとは思いますが。
座長	日本語地名の解説ですね。
B氏	もう現地に南高校がないのなら、いっそのこと追究しなくても構わないかも…。アイヌ語訳ですが、私は「飛び跳ねる・いつもする・川」の方がいいと思います。
座長	その方が一般的ですね。知里真志保さんの「つけている」というのは、意味がよく分からない。
B氏	「ウシ」という言葉は、「ついている」という意味もあるのですが、この場合は「いつもする」の方だと思います。
座長	「いつもする」の方がいいですよ。
B氏	だと思うんですけど。
座長	Cさんどうですか。
C氏	本来はそういう意味ですよ。「ウシ」はね。
座長	「ウシ」はいろいろな意味がありますが、ここではね。 それから「テレケ」も、「飛び越える」と「飛び跳ねる」と、ふたつ意味が出てきていますが。
B氏	本来は「飛び跳ねる」という意味ですね。
座長	「飛び跳ねる」ですよ。よく、ウサギとかに使う。
B氏	「飛び越える」だとまた別の言葉になってしまうので。ただ説明がないと、そこでジャンプしているという意味にみえてしまいますけど。
座長	それは説明の方で「飛び越える」にすればいいのではないのでしょうか。田村すず子さんのアイヌ語辞典など見ると、「テレケ」は「びょん」という音が入っていて、ウサギみたいな「びょんと飛び跳ねる」のを「テレケ」とお書きになっている。
B氏	カエルとかでも「テレケ」という。上下でなく、前方に行くことでいいのだと思います。
座長	「びょん」とって言葉を入れた方がいいのではないかなと思ったのですが、どうでしょう。

	<p>【パソコンで南校川の流路を確認】</p> <p>【板書】</p>
座長	<p>両方あわせて書いてみました。</p> <p>「テレケウシナイ 飛び跳ねる・いつもする・川</p> <p>かつては川幅が狭く、対岸にいつも飛び越えていたことからこの名がつけました。昭和 31 (1956) 年に、現在の神楽 6 条 12 丁目に旭川南高等学校 (現神楽中学校) が設置されたため、南校川と呼ばれました。」</p> <p>としてみましたけれども、どうでしょうか。他に書くことありますか。</p>
B 氏	<p>詳しく分からないけれど、神楽岡南とか緑が丘とか、この辺りを通って松浦武四郎が行ったのかな。</p>
座長	<p>前に C さんが、ヘッチェウシのときにいろいろ書かれていましたが。美瑛川の川沿いには、コタンはあったのですかね。</p>
C 氏	<p>会議資料 6 ページの地図で、ここからテレケウシナイになっていますよね。ということは、現在の南校川は、美瑛川の本流だったということですよ。現在はここで切れて、真っ直ぐに美瑛川がついているけれども。昭和 44 年の地図で崖が表示されているのは、美瑛川がそのように曲がって流れていたということですよ。テレケウシナイというのは、あくまで仮製 5 万に描かれている、この部分だけを本来は言っていた。だから、現在の南校川の下流部は、美瑛川の旧流ということですよ。仮製 5 万でいえば、南高校は美瑛川の蛇行の中、対岸の方にあった。それが美瑛川が真っ直ぐになって変わった。テレケウシナイは、美瑛川の蛇行部分に入ってくる細い川だったということですね。</p>
座長	<p>そういうことですね。</p>
C 氏	<p>昭和 44 年の地図だけ見ると、なぜ崖があるのかという感じがしていたのですが、これは元は美瑛川であったということ。その点をはっきりさせた方がいいかなという感じはしますよね。</p>
座長	<p>そういう意味では、仮製 5 万の地図を出した方がいいですね。昔は今と、これだけ違いますよ。</p>
C 氏	<p>そうすると、テレケウシナイというのがよく分かる。南校川の下流部はずいぶんと太い川に見える。確かに美瑛川の旧流だから、当然太いわけですよ。テレケウシナイというのはあくまでも、そこに入っている細い川だった。だから今の地図では、また昭和 44 年の地図でも、ぴったりはこないわけですね。</p>
B 氏	<p>明治 31 年の方がいいですね。</p>
C 氏	<p>本来は美瑛川が蛇行していたことが、はっきり分かりますよね。その蛇行の最終部分辺りにテレケウシナイが入っていた。だから小さい細い川だった。昭和 44 年の地図だと、美瑛川が真っ直ぐになっていますから。なぜ、こんなところがテレケウシナイなのかという感じがする。</p>
座長	<p>それがはっきり分かった方がいいと。やはり仮製 5 万の地図を入りたいですね。</p>
C 氏	<p>そうですね。その方が、よりテレケウシナイの様子が分かるような気がするのですが。</p>
座長	<p>そうですね。かつての美瑛川との関係を書いた方がいいですね。</p>
	<p>【板書】</p>

座長	「かつては蛇行していた美瑛川に注ぐ小川で、」と入れましょう。 それから、仮製5万の地図の中に、かつての南高校の位置を入れたらどうでしょうか。
C氏	その方がはっきりしそう。昭和44年の地図の崖に私は気付かなかったですね。
B氏	南校川の、美瑛川の旧流部分は本来テレケウシナイでなかったわけですね。
座長	そうですね。現在の美瑛川は、この辺りですね。現在の美瑛川の流路も描きましょうか。
館長	現在の美瑛川の流路は、全て入っていた方がいいですか。
座長	全部入れると、ややこしいですかね。この直線化したところだけでいいかな。ここが今は、こうなっているというのが分かるかというのかなと思う。
館長	点線か何かで、入れられるかどうか。
座長	ちょっと工夫していただいて。変わっていない部分は元々の地図通りで、切り替わった部分を点線で描くか何かで、ちょっと工夫していただければ。やっぱり、この仮製5万がいいですね。この部分だけを拡大していただいて。
館長	南高校は「南校」という表記がいいですか。
座長	正式には南高等学校でしょうから、そう書いた方がいいですけど、全部書くと大変だから。
館長	そうですね。作ってみて、大きさとか考えながら入れてみます。
座長	説明文の方で、「南高等学校（南校）：現神楽中」としまししょうか。説明文の中に南校という言葉が入っていれば、地図の方でも南校でいいでしょう。 普通、南高等学校を略したら、高いを使って「南高」ですよね。学校の「校」にした方がいいのかな。
館長	高いの「高」かとも思うのですが、川の名前が学校の「校」なので。
B氏	ややこしい。
館長	学校の「校」を使って「南校」でとも思います。
C氏	アイヌ語訳の「飛び跳ねる」はどうなのですか。
座長	それにしたのですが、一応。
C氏	川が小さいから、ぽーんと「跳び越える」という意味でなくて、「飛び跳ねる」にするのですか。
座長	なので、説明文の方で「いつも跳び越えていた」にしたのですが。元々の「テレケ」の意味が、「ぴょんと飛び跳ねる」という意味なので、そうしたのですけれど。アイヌ語訳も説明文も「跳び越える」にしますか。
C氏	「飛び跳ねる」は、こう（上下）でしょう。
B氏	本当は「テレケ」は「跳び越える」とは訳さないのですよね。たぶん、上下だけでなく前方方向に飛ぶときにも「テレケ」を使うのだろうと。そう考えると、「跳び越えた」ということになる。ただ訳すとなると「飛び跳ねる」の方が適切のような気がしますが。意味的には「跳び越える」でしょうが。
C氏	まったく知らない人が「飛び跳ねる・いつもする・川」を見たら、その所で飛び跳ねるのだろうか、という取り方をされませんか。
座長	なので「ぴょんと跳ぶ」としたら、前に跳んでいるふうになると思う。
C氏	いや「ぴょんと跳ねる」といったら、あくまで上にあがるのではないですか。

座長	「跳ねる」ではなくて「びよんと跳ぶ」。「びよんと跳ぶ」といったら、やっぱり前にいくでしょう。どうでしょうか。上に跳ぶというのも、あるかもしれないけど。
C氏	しかし、ここは、小さい川だから、跳び越えることを意味したいのではないですか。
座長	もちろんそうですが。「びよんと跳び越える」にしますか。
C氏	「びよん」はいらないのでは。
座長	「テレケ」の感じが出るかなと思ったのですが。短い方がいいといえば、短い方がいい。
C氏	最大のポイントは、私は全然気付かなかったのですが、現在の南校川の下流部は美瑛川が蛇行していた部分で、それが美瑛川が真っ直ぐになって、昭和44年の地図に崖の印が付いている。私は下流部もテレケウシナイだと思っていて、旧美瑛川ではないと思っていました。なので、この崖の印が理解できなかったのですが、仮製5万を見たら、これは美瑛川の古川であることがはっきり分かる。かつて美瑛川は、ここを通っていた。これで本当に納得できる。テレケウシナイは、あくまでも美瑛川に注いでいた川だと。 この部分が旧美瑛川だと分かるようにしていただければ、一番いいと思う。かつてこの近くに住まわれていた人であれば御存知だと思いますが、知らない人は美瑛川の旧流だということが分からないと、なかなか理解できないと思う。テレケウシナイというのは、美瑛川の旧流に注ぎこんでいたということが。なので下流部に南校川と書くと、美瑛川の旧流であることが分からないですよ。
座長	ですので、仮製5万の方がいいですね。
C氏	本当に、それをはっきりさせた方がいい。
座長	表示板を立てる場所にもよると思います。学校の近くに立てることになってしまった場合、かつて蛇行していた美瑛川の旧河道が、現在は南校川と呼ばれていることを書かないと、分からなくなってしまう。
C氏	この地図をはっきりと入れた方が、美瑛川が蛇行していたことが分かる。それが大事な気がしますね。そこにテレケウシナイが入っていた。現在、南校川が美瑛川に合流している所からやってしまうと、かつての美瑛川の旧流であることが分からなくなる気がする。これをなんとかうまく、地図と言葉で。文章はこれでいいような気がするけどね。「かつての蛇行していた美瑛川に注ぐ小川」で、絵がそこにきちっと入っていれば。
座長	南校川は、現在は美瑛川の旧河道も入れて南校川と呼ばれてしまっているわけですよ。それを入れた方がいい、それを書かないと、片手落ちかもしれない。
	【板書】
座長	「直線化された美瑛川の旧河道も含め、南校川と呼ばれました。」 少し複雑になってしましますが。
C氏	これが正しい。
座長	これが一番正しいけれども、長いですね。
C氏	入るかどうか。
座長	そうですね。美瑛川の方はいいのですが、かつて蛇行していた河道が残っているわけですよ。そこにテレケウシナイがそのままついているから、そこも南校川という名前になったというわけですね。元々アイヌの人達が言っていたテレケウシナイ、プラス、美瑛川の旧河道まで南校川になって、そこがだから、ずれてしまったということですよ。

	文章はいらないかな。地図に旧河道が入ってれば。
C氏	文章的には、長いけれども、これが納得しやすい。
B氏	この文字数は入れられるんですか。
館長	文字の大きさだったりしますので。
B氏	小さくすれば入りますか。それなら、この方がいいと思います。
座長	いいですか。両方に書いた方が混乱しないですよ。
B氏	ちゃんと書くのだったら、やっぱり旧河道も含めてると入れた方がいい。
座長	間違いないですよ。
館長	ちなみに図は、表示板のどの辺りに入れますか。上の方とかでしょうか。
座長	上の方じゃないですかね。上のほうが余白があって、下がずっと説明になるかな。
館長	昨年と同じような感じで。
座長	そうですね。図の範囲としては、このテレケウシナイがちょうどぴったり入るくらい。そして美瑛川が蛇行してるのが入るくらいで。蛇行している頭の辺りが右に入ればいいです。では一度、これで作ってみていただけますか。
事務局	確認ですけれども、テレケウシナイの「ナイ」の「イ」なんですが、これまで小文字になっているのですけれども。
座長	小文字でしたか。
事務局	「ハルシナイ」や「プイタウシナイ」など、小文字で作っています。
C氏	統一した方がいいですね。
座長	nai でなくて nay だから、統一しましょう。
館長	説明文の「南校」のところですが、南校の後は括弧で閉じますか。
座長	いや、コロンとかで。南校：現神楽中をお願いします。 事務局に一度作っていただいて、回していただいて、またそれでどうするか。そういうことをお願いいたします。 設置場所はこれから検討になるのですよね。
館長	まだ調整がついていません。すみません。
座長	地図も含めて、レイアウトしていただいて、こんな感じでどうでしょうということを皆さんに回していただく。お正月明けくらいになりそうですか。
事務局	そうですね。
座長	ではそれをお願いします。 議題3のその他に移ってよろしいですか。では、事務局からお願いいたします。
館長	今後、設置するアイヌ語地名表示板の関係で、今お配りしているのは、以前にお送りさせていただいた設置していきたい地名のリストで、皆様から御意見いただきながら思っているところです。 なかなかサイクリングロードは開通の見込みが立っていないところではありますので、そこは立てられないかなというところではあります。 この場で何か御意見等いただければ承りたいと思いますし、すぐには難しい部分もあるかと思っておりますので、「南校川」の表示板案ができましたら、皆さんにお送りいたしますので、その際にでも御意見をいただければと思います。

座長	18番のポロ岩は、どこでしたか。
事務局	太田委員が、神居古潭にあるとおっしゃっていたのですが、地図で本人に確認する前に別れて、そのままになってしまったので。皆さん聞いたことないでしょうか。
B氏	いや、分からないけど、地図に書いてあるのですかね。武四郎の何かとか。神居古潭のどこかって言っていたのですよね。
館長	太田委員が、当館で講師をしていただいていたときに、その中でお話があった部分で、深く掘り下げるまでできなかったところですよ。
B氏	これは、神居古潭のどこかなら、ぜひ立てていただきたいところではあります。結局サイクリングロードも、最初の方はよくても、途中から通れないですし、あまり遠くに表示板を設置しても意味がないでしょうし、なかなか難しいですね。
座長	7番のパンケ・アットゥシナイ（神居第3線川）は、設置場所見つからないですか。
館長	国道が目立つ物が立つと、そちらに目がいってしまうということで、立てられないところですよ。
B氏	走っているときには読めないですよ。よく橋のところにあたりするけど。
座長	あるけれど、見ようと思ったら運転がおろそかになりますからね。
館長	旧道の側に立てるという考え方もあたりするのですが。
B氏	けどね、人目につかないですよ。
座長	人の目に触れないと意味がないですからね。 15番のヌプポコマナイ（神水川）、16番のマタルクシベツ（拓北川）は、河川管理上難しいということですか。
事務局	人目の問題があるかと思います。大部分が農地や山の中を流れている川です。
座長	ああ、そうですか。人が見られるところじゃないと意味がないから。
B氏	8番のレーコロプイラ（有名の激湍）は、場所不明ですか。
座長	川村兼一さんは、この辺だろうと言っていた気がします。
B氏	でもこれって、何かに出てるからあがってきているのですよね。武四郎かな。
座長	由良さんの本に基本的に出てると思います。結局、サイクリングロードの関係で、設置の見通しが見つからない。
B氏	10番のカパプスイ（蝙蝠多き処）もサイクリングロードかと。旧道だと、なかなか目に止まらない。そういう難しさがありますね、表示板には。 けれど、「比布川」を立てたのもサイクリングロードですよ。
館長	あそこは車でも入れるようにもなっています。正式には管理道路だと思うのですが、川沿いに走っている直線道路は車でいくことができます。
B氏	神居古潭の辺りになると、完全にサイクリングロードですね。仕方ないですよ。橋の上から見えるからって、立てるわけにもいかないだろうし。
館長	3番のアサンカラ（永山）と、4番のキンクシベツ（永山）について何か分かることがあれば、教えていただければ。
座長	Cさんが提案された地名ですが。場所は特定できるのですか。
C氏	いや、難しいかも。
座長	キンクシベツは、前に作った「アイヌ川」とは違うのですか。

C氏	これは永山のキンクシベツ。
座長	ああ、永山の方ですか。
C氏	ここは、コタンがあって、かなりの方が住まわれていたところです。
座長	一般人立入困難と書いてありますけど。
B氏	もし分かるのであれば、キンクシベツは立ててもらいたいですね。
座長	人目につくということが大事だと思いますが、今まで立てたものは全て一箇所ずつですよ。それを複数作るのもいいと思います。チカプニだったら、近文小学校にしかないというのも、寂しい気がしています。3箇所とか、立てられないかなと。 今年開催したツアーというのは、何人くらい参加されて、どういう感じで実施したのですか。
事務局	参加は10名でした。バスでまわったのですが、博物館を出発して、まず「ウシシベツ」。次に「オチンカパ」で、近くに大型バスが止められそうになかったため、通過しながら、そこに表示板があって、川もありますよというのを見ました。それから小学校にバスを停めて「ピタウシナイ」。それから奥の方へ行って、上野ファームにバスを停めて「キピリヌプリ」を見て、折り返しました。帰ってくる途中に「タンネメム」を見て、博物館まで。一回りして、大体2時間半くらいです。
座長	案内はどなたがされたのですか。
事務局	博物館の職員が行いました。
座長	11月3日は、どのようなものだったのですか。
事務局	こちらはパネル展示でして、旭川市内の大きい地図に、表示板がある場所を示して、一覽を添えました。表示板の中から10基程度ピックアップして、地図の周りに表示板の写真パネルを貼りました。それから、「ヘツェウシ」と「ハルシナイ」については、表示板の写真パネルの他に、もう少し詳しい説明を、松浦武四郎の地図を用いるなどしたパネルを作って展示しました。毎年、11月3日は当館で「アイヌ文化に親しむ日」というイベントを行っていますので、その際には毎年展示しています。
座長	もちろん表示板を作るための懇談会なのですが、市民への啓発というか、そちらをもう少し力を入れてできたらいいなと思います。そういうツアー的なものとか、本当はアイヌの方が参加されて、一緒にやるというのが理想だと思いますが、事業として、なかなかそういうふうにはもっていけないものですか。
B氏	参加もいいと思います。 それから、博物館に来館したお客さんに、表示板が載っている地図を渡して、この中の何箇所かを撮影して持ってきてくださいね、と。それで撮ってきた人には、ちょっとした何かをプレゼントする。物が用意できないのであれば、次の企画展に、いつまでは無料で入れますよ、とかやるのもいいかなと。参加しないかもしれないけど、見に行かないと、なかなか目に触れないのかなと思うので。 他には、表示板について説明したプリントを置いておくとか。
館長	地名表示板については、ホームページで紹介しています。
B氏	調べ学習をする小学生とかなら見るかもしれないけど、皆が皆ホームページを見るかという、どうかと思う。「ヘツェウシ」でもいいし、何か一つ二つ書いてあって、さ

	<p>らに旭川にはこの他にもいくつ設置されていて、ホームページを見てもらったら、もっと分かりますよ、といった内容のプリントを博物館の入口とかに置いておくといいかもしれないですね。それは結構、持っていくと思います。A4に地図まで載せるのは厳しいと思いますけど、アイヌ語と日本語を表記しています、というのを紹介する。</p>
座長	<p>また、学校教育の中でうまく取り入れてもらう。Eさんは前からそういうことをなさってるかもしれないけれども、そういうことがもう少しできないかなと思いますよね。</p>
B氏	<p>たまたま学校の前に表示板がある、近文小とか永山西小とか、そういう学校は目にするけれども。ただ、その表示板は目にするけど市内にどれくらいあるかとなると、自分で調べないと分からないから。せっかく作ってますからね。</p>
座長	<p>今年出版した『「新しいアイヌ学」のすすめ』で、旭川のことを宣伝しました。 それから、来年度から高等学校のカリキュラムが変わって、地理総合という新しい科目ができます。今まで地理を選択する生徒があまりいなくて、歴史をとる生徒が多かったの で、それを防ぐために新しくできる科目なのですが、そこで使われる教科書の中に、新しく作った「忠別川」の表示板が写真で出ます。ですので、この旭川の事業が注目されてく ると思っています。 先日は日本遺産の会議で、東川町の方達と話す機会があったのですが、この話をしまし たら、町長が東川町でも地名を平等に書いた表示板を作りますと言ってくださったので、 もう少し広がりが出てくるかなと思っています。 そういう意味では、ひととおり今まで提案した表示板ができてきたところで、次にどう 展開するかというのを考えていけたらと思いますね。もう少し目立つ場所に、同じ地名で も何箇所か作るとか。地名表示板ガイドブックではないけど、何か作るとか。</p>
B氏	<p>今、思ったのですが、昔の地図と今の地図がどうなっているのか、それを見れるような ものが作れたら、見てみたいです。どのように川の流れが変わったか、昔は蛇行していた とか、それが今どの辺りなのか。そこに行ってみて、何もないかもしれないけど、この辺 りに昔は川が流れていたとか、そういうことが分かるものを見てみたいです。</p>
座長	<p>それから、当時のアイヌ語地名が付けられたときの、アイヌの人びとの上川での生活と いうのが分かって、それがどうして今みたいになってしまったのかということが分かる。</p>
B氏	<p>また、その当時、名前が付いていたということは、そこを通ってどこかに行っていたの だと思うので。</p>
座長	<p>生活の場であったわけですね。</p>
B氏	<p>例えばアットウシナイは、オヒョウがあったということでしょう。他にもキナがついた 地名があったけど。</p>
E氏	<p>神居の方ですね。</p>
B氏	<p>ありますね、キノウシナイとか。表示板を立てるほどでもないけれども、たくさん川の 名前が残ってるから、今もあるのかどうか、行ってみたいなと思います。</p>
座長	<p>そうですね。今までは、勝手に漢字の地名に変えられたものを平等に書きましようとい う趣旨でやってきたわけですけど、例えば仮製5万に出ているアイヌ語地名がいっぱいあ るわけですね。それが今は使われなくなってしまっている。それを復活してというか、 この小さい名前もないような川が、昔はこう呼ばれていたのですよというのを知らせる。</p>

	今はなくなってしまった地名がたくさんある。それだけアイヌの人びとが、細かく地名を付けて生活していたというのが分かるというのではないですかね。これまでの表示板よりは小さくていいわけだから。アイヌ語だけでいいわけでしょ。併記しないで済むから。
B氏	小さい、ちょっとしたもので、立てるならそういうものを。立てられないのなら、地図上におこしておくだけでもいい。
館長	いただいた意見について、いろいろ考えていきたいと思います。
座長	アイヌ語地名の付けられている密度ってすごいですよね、この古い地図を見ると。今では全然、そういうものに名前が付いてなかったりね。
B氏	主に川ですけどね。
座長	川については本当にそうですね。本当に一本一本の川が大事だ。自然というのはそういうものだから、ひとつひとつ名前を付けるということは、大事にするということですよ。
C氏	今回の「比布川」も、ここを通る人はそんなに多くないと思うのですが、インターネットに出ることが重要ですよ。だから北海道の人はもちろん、全日本、世界の人が見ることができる。そういう意味では、インターネットに出してもらっているのは、すごい効果があると思います。日本中の人が見ようと思えば、全部見れる。これはすばらしいと思う。誇りに思うし、ありがたい。
座長	ホームページ見るだけで、全部知れますね。
B氏	表示板があることをいっぱい宣伝して見てもらいたいですね。宣伝のためには、博物館の中でできることとしては、何か一枚プリントを置いておくことかなと思います。
座長	そういうことで、来年度もよろしくお願いします。
事務局	皆様、長時間ありがとうございました。 テレケウシナイの表示板のレイアウトしたものが完成しましたら、お送りいたしますので、御確認と再度検討をお願いいたします。 また本日の会議録についても、完成次第お送りいたしますので、御確認をお願いいたします。 それでは第22回旭川市アイヌ語地名表記推進懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。